

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

29 April, 2009

IN THE HEADLINES



世界経済

メキシコ、そして既に地理的には他の地域への広がりも見せている新型(豚)インフルエンザは世界的な大流行の可能性もあるとの恐れを増加させている。これと似た経験は2003年初頭のSARSと、2003年終盤から2005年終わりにかけて東南アジアから東欧に広がっていった鳥インフルエンザである。前者は短期的には2003年第2四半期にアジアにおいてGDPの2%の減少という影響を及ぼしたが、後者は顕著なマクロ経済的なインパクトはなかった。現在の新型(豚)インフルエンザウイルスの激しさは不明である。世界的に大流行するという最悪のケースは、現状の世界経済の後退を深化させ長引かせることになるだろう。しかし、いずれにしても現在の危機がどの程度長引き、どの程度の深さのものであるか未だ不明である。



韓国

予想外に、第1四半期で経済は前年同期比で0.1%成長し(第4四半期には5.1%縮小している)、これは大掛かりな財政刺激策と金融緩和に支えられたものだった。公的部門の契約が建設部門の生産を6.1%押し上げ、減税と金利引き下げの影響で個人消費を0.4%押し上げた(第4四半期には4.6%下落していた)。しかし前年比では実質GDPは4.3%縮小し(第4四半期には3.4%の縮小)、そのうち設備投資(22.1%の下落)と輸出部門(10.5%の下落)がとりわけ打撃を受けた。2009年には、全般的な見通しと、とりわけ海外からの需要が弱いため、GDPは5%以上縮小する見込みである。



南アフリカ

アフリカ民族会議(ANC)は4月22日の選挙で65.9%の票を得て、予想通り4度目の勝利を納めた。新しい野党の国民会議(COPE)が7.4%のみの得票となった一方で民主同盟(Democratic Alliance)が16.6%の票を得、再度西ケープ州のコントロールが可能となった。西ケープ州は9つの州で唯一ANCが治めていない州である。議会が5月6日に再開すればズマ氏を大統領に選ぶことだろう。しかし、停滞し続ける経済(GDP成長率は-1から+1%程度となるだろう)およびANC投票者の高い期待もあり、ズマ氏の任期の初期段階はたやすい道ではないだろう。蜜月期間は短く、一定の期間、社会的な緊迫状態が増幅することが見込まれよう。



エストニア

経済は痛みを伴う景気後退の只中にあり、小売、工業生産と輸出が各々、1-2月において、前年比で17%、31%と28%減少している。良い面としてはインフレ率は3月に前年比2%まで落ち着き、今年の1-2月においては輸入の落ち込みが輸出の落ち込みよりも大きく、35%も下落していることもあり(前年比)、経常収支赤字も今年は2008年の9.2%よりも下がる見込みである。今年2月に、エストニアを格付の引き下げ可能対象国としてあげていたMoody'sはエストニアのソブリン格付を先週A1(見直しネガティブ)と確認した。実質GDPが第1四半期では10%以上縮小し、2009年全般では少なくとも8%は縮小することが見込まれよう。

ALSO IMPORTANT...



アイスランド

4月25日の総選挙結果は顕著に左派に傾き、新しい連立政権は社会民主同盟(SDA)と緑の党(Left-Green movement)によって構成され、それら政党が63議席のうち34議席を占めることとなった。18年近く政権の座についていた保守派の独立党は少数派になった(16席)。シングルダルトツェル新首相の下の新しい政権はアイスランドをEU加盟に近づけようと試みるだろう。しかし、緑の党は漁業セクターを脅威に晒す可能性のある如何なるものについても反対であり、国民投票によっても人々がEU加盟申請を支持するかどうかは不透明である。方々、今年のGDPは10%程度縮小することが見込まれよう。



インド

先週の中央銀行における、主要金利の25bpの更なる引き下げは、経済の弱体化が続いていることと、銀行への低い金利の効果が借入側には完全には転嫁されておらず商業貸付を底上げしていないという懸念があることを表している。この波及の弱さが、今後更なる金利引き下げに繋がることになるだろう。中央銀行は2009-10年度のGDP成長率が6%にとどまるとの見通しを発表している(直近の年度では6.5-6.7%)。しかし、国内的にも対外的にも信用拡大が難しい中、投資も消費も縮小しており、この暦年でのGDP成長率は4.5%程度となることだろう。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES



トルコ

最近の経済データは2009年の深刻な不景気をあらわしている。実質GDPは第4四半期においては前年同期比で6.2%縮小しており、1-2月の工業生産と輸出は、各々22.5%と25.4%も落ち込んだ。製造業設備稼働率は第1四半期においては64%まで下がり(前年は80%)、失業率は1月には15.5%まで跳ね上がった(前年は11.3%)。2009年においては経済は少なくとも4%は縮小することが見込まれよう。3月末の地方選も終わったにもかかわらず、IMFとの協議再開の兆しも無い。カントリーリスクは依然として高いままである。



ガンビア

2006年の大統領選挙はヤヒヤ・ジャメに更に5年間の任期を与えた。与党愛国再建同盟(ARPC)は議会の48議席中42議席を有している。しかし、定期的にガバナンスの有効性についての意義と不満がでてい。落花生以外には天然資源に乏しく、国土も限られているガンビアは、海外援助に依存し続けざるを得ないだろう。観光収入は治安に問題があると思われることに加え、世界的な観光需要の減少、とりわけ欧州からの訪問客の減少により、不安定である。よって、2009年のGDP成長は3%程度に留まるだろう(2000-2008においては平均5%程度)。

IN BRIEF

ソブリン格付 エクアドル

Moody'sはラトビアの格付を2ノッチ引き下げてBaa3とし、リトアニアを1ノッチ引下げてA3とした。ともに見直しはネガティブである。ラファエル・コレア氏が4月26日の選挙(1ラウンド目)において、大統領の二期目に再選された。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.